N021

新疆におけるキアオジの冬季生物学的資料

侯 闌 新
西北民族大学生命科学技術学院
訳 福井和二

摘要 キアオジ (*Enberiza citronella erythrognys*) は新疆北部で越冬し，決して希に見る冬鳥，あるいは迷鳥ではない．その調査資料を発表する．

キアオジ (*Enberiza citronella*) に関しては，以前から基本的に我が国で希に見られる冬鳥，あるいは迷鳥とされ，我が国で繁殖していないとされていた[1-3]．実際に，1988年たった1回だけ記録があり，向礼陔等[4]が1983年7月11日アルタイで採集した標本を，新疆での鳥類新記録として報告し，繁殖するものと推測している．

筆者は1981年10月新疆の伊犁谷地方の秋冬季鳥類調査を行なった際，キアオジを採集した．1994年10月から12月と1995年9月から12月再び伊犁谷地方でキアオジを採集した．しかも，個体群の数は少なくなかった．これによりキアオジは天山山脈から新疆北部一帯で越冬ししていると見られるが，さらに，新疆南部についても越冬を否定することはできず，調査が期待される．

現在のキアオジに関する生物学的資料は以下の通りである．

採集地；霍城 (X26)，伊寧 (X20～29)，昭蘇 (X27)，察布査尓 (XI 16)，特克斯 (XI 23～２５,XII 2)，鞏留XII９)．

識別特徴

雄鳥 (冬羽)；頭頂は黄色で，羽の基部は帯灰緑色の羽縁で覆われ，わずかに暗色の条紋を有し，後頸および頸側も灰緑色，背は暗褐色で黒褐色の条紋，腰および上尾筒は栗色，腰はわずかに暗色の縦紋，これら（背、腰、上尾筒）はすべて白色かかったシュロ色の羽縁があり，尾羽は黒色，中央の尾羽の羽縁は浅い灰褐色，両外側の尾羽には楔形の白斑がある．翼は黒褐色，初列風切の中ほど外翻の羽縁は淡黄色．次列風切と雨覆の羽縁は幅の広い赤褐色．頬と喉の中央は鮮やかな黄色，喉の両側から嘴の基部にかけて顕著な栗色の頬線は灰緑色の耳羽の後ろまで伸び，羽縁は褐色を帯びた黄色である．胸部はオリーブ灰色で，幅広い栗色の斑点がある．両脇は同様の栗色条紋があり，下体は鮮やかな黄色，下尾筒もまた黄色．

雌鳥 (冬羽)；頭頂は灰褐色で，明らかな黒褐色の従紋があり．下体の黄色は雄に比べて浅く淡い．頬，喉，胸と両脇はオリーブ灰色，羽縁は黒褐色あるいはシュロ色の斑紋．喉下部は明らかな黄色．下尾筒は鮮明な暗褐色の縦紋で，白と黄色のまばらな羽縁．背，腰，翼，尾は雄鳥と似ているが，上尾筒は暗褐色の縦紋がある．

亜成鳥の頭頂も黒褐色の従紋があり，栗色の頬紋はなく，胸と両脇は成鳥と似ている．下体も鮮やかな黄色である．

嘴の基部は褐色で，脚は肉色あるいは淡褐色である．

趙正階[3]と Vaurie[5]の記述によると，キアオジの繁殖地域はヨーロッパ東部からシベリア中部までの広大な地域とされ，冬季は繁殖地域のわずか南の地域で越冬し，ヨーロッパ南部，中央アジア，北アフリカ，北モンゴルなどが挙げられている．調査資料により，新疆北部もまた越冬地域と認められる．Vaurie によるとキアオジには３つの亜種があり，その内の北方亜種 *E. c.*

*erythrogenys*は他の2種と比較して，頬の後ろと肩が灰緑色，胸部と両脇の栗色斑がより乏しく，暗色である．繁殖はヨーロッパ東部から東へシベリア中部のビリュイ河とレナ河(東経110°付近)．南はウクライナ，コーカサス，ウラル川，イラン北部，中央アジアのキルギス平原北部，アルタイ山と薩彦嶺などの地域である[5]．中国国内のアルタイ山地東南で当然繁殖が見らる[4]．冬季はイラン，カザフスタン，天山，モンゴル北部，新疆北部の多くの地方で越冬している．

表1 キアオジの各部測定値(長さ mm,重量 g)

n	体重	全長	嘴峰	翼長	尾長	跗蹠
5♂♂	27	168.0	10.6	88.6	75.0	20.4
	(23-31)	(160-174)	(10-11)	(85-93)	(73-79)	(19-23)
6♀♀	29	163.7	10.5	86.7	74.5	20.5
	(28-30)	(159-168)	(10-11)	(85-90)	(70-83)	(19-22)

冬季の伊犁谷地域における調査資料を示す．調査活動範囲はオアシス平原から標高1900mほどの中山間地帯で渓谷の二次林と山へ入る前の平原の疎林等を多く調査した．また農耕地，果樹園，人工林，住宅地付近なども調査し，キアオジは標高の比較的高い場所に多く生息し，人や家畜が活動する地域も小群が行動し，単独で行動しているものも見られた．キアオジが新疆北部に渡来する時期は，その他の冬鳥の渡来より遅く，一般的に10月中下旬に見られ，1981年に最も早く採集された標本は10月20日，1995年の冬季調査期間の最も早い採集標本は10月27日であり，伊犁谷地域でよく見られるようになるのは11月に入ってからである．冬季は賽里木湖畔(1981X22)と烏魯木斉市郊外でもキアオジを見ることができる．

7羽の胃内容検査では小麦粒，燕麦粒その他雑草の種子が見られ，1羽の胃中に昆虫卵と昆虫の砕片が見られた．別に，向礼陔等によると，夏季の剖検例で，1羽の胃に植物種子の他，甲虫等の昆虫砕片が有ったとしている[4]．